

令和5年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立奥中学校	学校No.	61
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>本校では、「学びあい・認めあい・輝きあい」を合言葉とし、豊かな心の育成を目指した様々な取り組みを重ねてきた。福祉教育においては、体験活動や講演会等を通じて、多面的な見方・考え方ができる生徒の育成と、社会貢献の喜びを感じられる生徒の育成を重点目標として取り組んできた。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>(1) エコキャップ回収活動 各学年の昇降口にペットボトルキャップの回収ボックスを設置し、集めたキャップを発展途上国の子ども向けワクチン購入に役立てているNPO法人に寄付する活動を行った。福祉委員会でポスターを作成して各教室に掲示したり、集まったキャップの数を集計して一覧表に記入したりして、学校全体の意識向上を図った。</p> <p>(2) 福祉実践教室 1年生が、車いす・手話・点字・高齢者疑似体験・視覚障害者ガイドヘルプの5講座に分かれて活動を行った。どの講座でも、講師の先生の説明に真剣に耳を傾け、友達と協力して体験活動を行う姿が見られた。生徒の感想用紙には、学んだことをこれからの生活に生かそうとする記述が多く見られた。</p> <p>(3) 能登半島地震被災地支援募金 令和6年1月、能登半島沖を震源とする大地震が発生した。3学期が始まってすぐ、生徒会から募金活動を行いたいという提案を受け、福祉委員が中心となって募金活動を行った。登校時、福祉委員が募金箱を持って昇降口に立ち、募金を呼びかけた。集まった義援金は、生徒代表が一宮市社会福祉協議会に持っていき寄付をした。今年度は、緑の羽根募金・赤い羽根募金と合わせて3回の募金活動を行った。緑化委員や福祉委員の生徒が、帰りの会で各学級に呼びかけをし、多くの生徒が協力している姿が見られた。</p> <p>(4) 福祉体験学習 希望者を募り、夏休み中に高齢者・障害者福祉施設やおもちゃ図書館のボランティア活動に参加した。参加した生徒は、施設利用者の方と会話をしたり、一緒にゲームなどを行ったりして、笑顔で生き生きと活動していた。この活動に参加した生徒の一部は、秋に行われたコスモス祭りにも参加しており、人の役に立つことの喜び、人に必要とされる喜びを深く感じている様子であった。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>新型コロナウイルスの影響で制限されていた活動が、少しずつ以前のように行うことができるようになってきた。福祉実践教室でも、高齢者・障害者施設でも、体験をしているときの生徒の表情はとても豊かで、事後の感想を見ると、多くのことを感じ取っている様子がうかがえた。福祉教育は、体験することが何よりも有効であると改めて感じた。今後も、生徒ができるだけ多くの体験する機会をもてるよう、学校全体で計画をしていきたい。一方で、募金活動やエコキャップ回収活動は、生徒の自主的な気持ちによるところが大きい。生徒会や福祉委員会だけでなく、美化委員会や緑化委員会などとも連携し、それぞれの活動に対する意識向上を図る工夫をしていきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 5 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立萩原中学校	学校No.	62
-------	-----------	-------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校の教育目標は、『校訓「礼儀・感謝・責任」の精神を学校教育の全面に生かし、知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましく「生きる力」をもった生徒を育成する』である。そして、本年度の重点努力目標では、豊かな心の育成を目指す中で「福祉体験や職場体験、福祉体験ボランティア活動に取り組む」などの目標を立て努力してきた。これまでの経験と反省を踏まえて、「福祉実践教室」に継続的な活動に取り組んできた。ただ、新型コロナウイルス感染症が5類に移行した関係で、少しずつコロナ以前の体験に戻りつつある行事が多くなった。ただ、「職場体験活動」についてはオンラインでの開催であった。子どもたちにいろいろな活動を通して、様々な体験をさせ、福祉教育の充実を図っていった。

- 年間通しての美化活動やあいさつ運動
- 全校での「道徳教育」や「人権教育」の取組
- 通常通りの学校行事「体育祭」や「合唱コンクール」の取組
- 緑化運動 ○資源回収（年2回） など

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

(1) 花いっぱい運動（チューリップ祭り）

潤いのある学校生活の環境作りの一環として、季節の花を花壇で育てたり、校門付近や各学年の昇降口などにプランターを設置したりした。また、学校行事の際には、会場やグラウンドを季節の花で飾り、緑あふれる学校作りに努めた。また、毎年秋に、地域の方からチューリップの球根を寄付していただいている。そのチューリップの球根を、1年生が一人1つのプランターに植え、次年度の入学式をきれいな花で飾ろうという取組を実施している。

- 10月30日(月) 企画委員会及び職員会議で実施内容の検討。
- 11月13日(月) 学年会議で検討し活動計画の検討・確認。
- 12月初旬 朝のSTに1年生各クラスでプランター作り実施する。



(2) 人権読み聞かせ週間

毎年、PTAのボランティアの方々に協力を依頼し「読み聞かせ」を行っている。今年度も人権週間に合わせ、人権に関わる本を紹介したり、本に興味をもたせたりしている。読書を通じて豊かな感性、情操や思考力を育てていきたいと考えている。また、この期間に講師の方をお招きし、人権講演会も併せて行い、人権教育の充実を図っている。

- 10月～ 読み聞かせボランティア募集。
- 11月中旬 ボランティアの方々との打合せを行う。
- 11月28日(火)～ 全学年各クラスで人権読み聞かせ実施する。



(3) 福祉実践教室（1年生）

毎年、1年生を対象に福祉実践教室を行っている。一宮市社会福祉協議会と連携し、手話や点字、車いす、ガイドヘルプなどの体験を行うとともに、障がいへの理解を図っている。生徒たちの取り組む姿勢はとてよく、しっかりと話を聞いたり、各講座に真剣に取り組んだりすることができている。

- 9月 1日(金) 職員会議で検討。
- 10月 2日(月) 学年会議で検討し活動計画を立てる。
- 11月21日(火) 「福祉実践教室」についてオリエンテーションを行い、福祉に関する資料を読む。
- 11月24日(金) 「福祉」や「ボランティア」について、図書館やchromebookを利用し、調べ学習を行う。
- 11月30日(木) 「福祉実践教室」を開催。
- 12月 1日(金) 社会福祉実践教室・レポートまとめをする。




3. 福祉教育の成果と今後の課題

今年度は、コロナが5類に移行した5月以降で「ボランティア活動」など例年通り実施することが多くなった。子どもたちは、ボランティア募集があると、積極的に参加の申し込みをして、地域の方たちとの交流を深めることができた。多くの子どもたちがボランティアに参加したことで、例年よりも社会福祉への関心を高め、意欲的に活動することにつながることができた。また、この1年を通して、コロナ禍では味わえなかった、人と人とのつながりの大切さや関わり方などを、多くの行事や活動を通して学ぶことができたと思われる。また今後も継続して取り組んでいくとともに、生徒の豊かな心を育てていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 5 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立千秋中学校	学校No.	63
1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）			
<p>本校では、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図り、心身ともに健康で思いやりの心とたくましく生きる力をもつ生徒の育成を目指している。その一環として、地域の介護福祉施設との連携を図るなど、地域に密着したボランティア活動を意欲的に進めている。</p>			
2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）			
○ 福祉実践教室（1年生）			
<p>毎年1年生が、福祉について学習を行っている。車イス、手話、点字、視覚障がい者ガイドヘルプ、高齢者疑似体験といった体験活動を行った。積極的に学ぶ姿が見られ、障がいをもった方への理解を深めることができた。その後の総合的な学習の時間で、まとめ学習を行った。</p>			
○ 「いちのみやボランティアフェスティバル 2023」への参加			
<p>10月に行われた「いちのみやボランティアフェスティバル 2023」に、今年度は2名の生徒が参加し、昼食会場の手伝いを行った。</p>			
			
○ 「おもちゃ図書館なかよし」への参加			
<p>夏季休業中に、丹陽校区内にある「おもちゃ図書館なかよし」へ赴き、おもちゃ図書館の体験活動を行った。今年度は、2名の生徒が参加し、おもちゃを整理したり、一緒に遊んだりして、子どもたちとの交流を深めた。</p>			
○ 「青少年等ボランティア福祉体験事業」への参加			
<p>今年度は、「障害福祉サービス事業所あおぞら」をはじめとした3か所の施設へ5名の生徒が参加を希望した。それぞれの施設で利用者の方とコミュニケーションを図ったり、職員の方の仕事を手伝ったりして、デイサービス施設の体験活動を行った。</p>			
3 福祉教育の成果と今後の課題			
<p>毎年行われる地域の各施設へのボランティアには、上級生を中心に積極的に参加した。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための制限が緩和され、ボランティアに参加できるようになってきた。今後も福祉に関する学習を継続的に行っていくと同時に、活動を報告する場をつくり、全校生徒の福祉への意識を高めていきたい。</p>			


令和 5 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立西成東部中学校	学校No.	64
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>目 標 障害のある人々や高齢者との交流を通して、お互いの良さを認め合い、心豊かな生活を送ることができるようにする。</p> <p>計 画 ・ 全校生徒で福祉実践教室に取り組む。 ・ 生徒会を中心にアルミ缶エコキャップ回収や赤い羽根の共同募金に積極的に取り組む。 ・ 地域の敬老会にボランティアとして参加し、高齢者との交流を図る。</p> <p>推進体制 ・ 福祉実践教室は、福祉教育担当教師を中心に全校体制で進める。 ・ アルミ缶エコキャップ回収や赤い羽根の共同募金は、生徒会活動担当教師が中心となって進める。 ・ その他、ボランティア活動は、福祉担当教員が中心となり、他の教職員の協力を得て進める。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各種ボランティア活動への参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8月2・4・7・8日 ・ 敬老会へのボランティア参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9月18日 ・ 福祉実践教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6月26日 ・ 生徒会による赤い羽根の共同募金・・・・・・・・・・・・・・・・ 12月12日～14日 ・ 全校生徒によるアルミ缶エコキャップ回収・・・・・・・・・・ 毎月3日間 ・ あいさつ運動へ参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 毎月第3月曜日 <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アルミ缶エコキャップ回収や赤い羽根の共同募金に取り組むことで、社会貢献に対する生徒の意識が高まった。 ・ あいさつ運動に参加し、募金同様社会貢献に対する生徒の意識が高まった。 ・ 今年度は、昨年度より実施できたものが増え、福祉関係に関する学習ができたことが大きい。希望する生徒全員が参加できるわけではないため、十分とは言えないが、福祉に関する学習をする時間の確保ができたことはうれしい限りである。 ・ 来年度も、ボランティア活動にも参加する機会を増やしていきたい。 			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和5年度 一宮社会福祉推進校実践活動報告書

学校名	一宮市立大和南中学校	学校 No.	65
1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）			
<p>本校では、校訓である「至誠」「自律」「敬愛」の心の育成をめざし、教師・生徒相互の信頼を深め人間性豊かな生徒を育成するための様々な活動を行っている。昨年度に引き続き、社会福祉への関心を深め、ボランティア精神を養い、実践力を身につけさせる活動を進めた。</p>			
2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）			
(1) ボランティア委員会による校内活動			
<p>○ ボランティア委員による清掃活動や花壇・プランターに水やりを行う活動を年間通して実施した。委員会の時間に校内の花壇の整備やグラウンドの草むしり、資源再生回収などを実施した。</p>			
			
(2) 社会福祉に対する関心・理解を深める活動			
○ 福祉実践教室			
<p>5月22日（月）に1年生対象に福祉実践教室を行った。講師の先生方を招いて、障がいがある方の社会との関わり方や苦勞を聞いた。また、手話と点字の体験では、真剣な態度で体験に取り組むことができ、助け合いの心や思いやりの心を学ぶことができた。体験後は、「教わったことを生かして、障がいのある方に少しでも役に立てるようにしたい」「新しいことを知って福祉のことについてもっと知りたいと思った」という感想が見られた。</p>			
○ 青少年ボランティア福祉体験学習			
<p>夏休みに、「おりすと作業所」「だいち」「おもちゃ図書館なかよし」でのボランティア活動に参加した。「毎日やるのはすごい。働きやすい環境だった」「普段交流できない障害者と交流できて、よい経験になった」という感想が見られた。</p>			
○ いちのみやボランティアフェスティバル 2023 のボランティア			
<p>10月15日（日）に、一宮スポーツ文化センターで、いちのみやボランティアフェスティバル 2023 ボランティアとしてのティッシュや風船を配ったり、共同募金を呼び掛けたりした。</p>			
○ コスモス祭りボランティア			
<p>11月26日（日）に、彦田公園で、コスモス祭りのゲームのボランティアとして参加した。</p>			
3 福祉教育の成果と今後の課題			
<p>各ボランティア活動には、多くの生徒が自発的に希望して参加することができた。学校全体として、今後も積極的にボランティア活動に対する関心をもち、理解を深められるように今後も働きかけをしていきたい。</p>			